

# 学習者のレベルが広い場合における英語教授の試み

～異文化世界の体験を通じて～

永野 篤

(キャリア開発総合学科)

## I. 研究の背景と目的

直接的な学力試験が課されずに大学に入学した学生を対象とした英語の授業を成立させることは非常に困難である。個別の知識や素養の違いやレベルの開きが広い場合には、なおさらこのことが当てはまる。その解決を図るため教員が工夫して行った授業の実践報告として筆者が2021年度担当した『医療の外国語』ではGoogle ClassroomとGoogle フォームを活用し、リアルタイムの対話的なやりとりを取り入れた授業を行い記録した。その成果を踏まえ、2022年度は『医療の外国語』は廃止し、新たに設置した『現代英語』において学習者のレベルが広い場合における英語教授の展開を行った。なお、筆者が専攻した文化人類学におけるエスノグラフィーや論文では具体的な内容が細かく記述されることは珍しくない。その手法を踏まえた教育人類学における授業記録においても詳細が示される[飯塚2019:159-180]。本論ではこうしたことを踏まえつつ、後々、比較・参照されることも念頭に、テストやアンケートの内容や結果についてもできる限り掲載し、かつ全体を俯瞰できるように受講者数など詳細を含めた一覧表を作成した(表1)。

## II. 名称変更に伴う科目の位置づけと受講者の違い

『医療の外国語』は、医療事務と呼ばれる系(学習領域)に属していた科目である。系

には「医療ベーシック」「医療・調剤事務」「医師事務補助」という3つのユニットがあった。ユニットは10単位から20単位程度での関連の深い科目群をセットにして構成される。学生は原則そのセットで履修することになっている。『医療の外国語』は、「医師事務補助」ユニットに含まれていた。『医療の外国語』の正式名称は『医療の外国語(英・独・ラテン語)』であり、ややとっつきにくい印象を与えられた。好みであるか否かにかかわらず、ユニットであるから選択する者が半数以上で、英語や医療の外国語に興味がある者は三分の一に過ぎない[永野2021:40-41]。フリー科目でもあり、ユニット受講者以外も選択できる。しかし、単位不足を補うため、という理由も影響しており、学びのモチベーションにはやや疑問が生じる。医療分野で、かつ、英語(外国語)で、資格要件などには直接関係がなく、学生が受容できるレベルの提供のあり方においては、筆者が担当して以来、計画・運営には苦慮した科目であった。こうした経緯もあり、医療という枠をはずし、科目名称を『現代英語』とし、医療事務系ユニットから削除し、フリー科目とした。「ユニット」だから選択する、という動機ではなく、より純粋に英語についての興味関心を持つ者の受講を促し、その知的好奇心に伝えることができるのではないかと期待した。その一方、元々の履修時期が2年次後期になっており、単位不足を補うための受講や、

就職活動のために欠席数が多い者も珍しくはない。こうした層の学生が存在することも想定し、授業を構成した。

### Ⅲ. 授業計画と評価の方法

2021年度の『医療の外国語』では医療系の授業であることを意識し、第2回、第3回の授業でアメリカの医療ドラマ『Chicago Med』シーズン1を取り上げた。ドラマにでてくる単語として動脈、静脈、精神、妊娠、肺炎、切断、臓器移植、手術、脈、圧迫、酸素、重体などの英語表現についてもGoogleフォームで確認した。丁寧に説明はしていたものの、必ずしも期待通りの結果ではなく、教授側の工夫が必要であり、より平易な内容で進むべきと判断せざるを得なかった。医療分野に関係するドラマは、通常の会話よりも難しくなりがちである〔永野2022:35, 40-43〕。『現代英語』では医療という分野に制限されず、文法や単語が比較的簡単で学生にとってはわかりやすい素材の選択の幅が広がった。それに適ったアメリカの映画を導入することにし、学生の様子を見ながら、以降の素材については検討することとした。

授業評価は、平常点と小テストによって行うこととなっていた。平常点としては、授業の事前・事後のアンケートに答えることで、授業を構成していく上での貢献とした。小テストは学力のバラつきの広さを考慮し、専門的になりすぎることと避け、学生それぞれの力量に応じて回答ができるように配慮する方針とし、学生にもその旨伝えた。

2021年度の『医療の外国語』では、学生が獲得できる得点範囲を想定し、真面目に授業に取り組めば、小テストにおける得点が単位修得レベルに収まるように設定することにしてきた。小テスト以外にも、英語のレベルや知識に関する情報を把握するためアンケー

トをGoogleフォームによって行い、その結果を精査し、テストに反映することにした。アンケートの結果は回答後、即集計し、内容を学生と共有した。テストの点数についてのヒストグラムも学生に示した。学生にとっては自分のレベルを相対的に把握することで意欲を高めることが期待される。教授者はレベルのバラつきがあることを学生と共有することで、レクチャのレベル調整の根拠を示すことになる。学習者中心の授業であるが、全員のレベルに合わせてはできない。しかし、なぜその説明をしているかのアカウントビリティとなる。

アンケートを踏まえ、学生にとって未知と思われる分野については特に強調して解説を行うなどして、事後の小テストでは、全員が正解することを期待していた。だが、必ずしも結果は伴っておらず、理解における隘路が存在していた。その様相は個々に異なっていると想像され、その解決にまでは至らなかった。テストの設問において、正解が一つしかない場合には零点は発生するが、記述式の場合には何らかの評価をすることが可能となる。そのため、2022年度『現代英語』では、小テスト4回のうち1回を選択式とし、3回を記述式とした。これに加え記述式アンケートと称した授業の感想が4回実施されており、記述式は授業回数の約半分にあたる合計7回となった(表1)。

学習の教材として外国の映画やドラマが使用されており、これは異なる文化圏の他者理解に通じるものと考えられる。長期・短期を問わず留学などをした場合には「自己の暗黙の前提」を問い直すような「文化人類学的なものの方や考え方」が身につくことがある。学生にとって「紋切型の思考を相対化させる」学びとして「体験の言語化」がある〔箕曲2019:45, 55-56〕。動画素材は体験そのもので

はないが、単なるテキストに比べ臨場感はある。言語とそれが活用されている場面が一体となっており、そこで得られた学生の自由記述のコメントに表された気づきは、教授側にとっても授業を構成することに役立つ。学習者を学習のデザイナーと捉え、その理解の過程を振り返ったり自覚したりする機会を設けたり、相互にモニター（註1）することは興味を育てる活動の一環として有効である〔秋田2008:129〕。

2021年度同様、2022年度も英検レベルに準拠したテスト形式のアンケートを適時実施し、学生のレベルを把握した。範囲は準2級、5級、3級である。授業で必要または参考となるウェブサイトの情報の提供は、Google Classroomに掲載し、学生が、授業前・中・後に参照することができるようにした。

#### Ⅳ. 授業の詳細① [2回目～5回目、主にアメリカ英語]

全授業の構成については一覧として示した（表1）。第1回目は、ガイダンスと視聴予定動画の紹介を行った。第2回目から第5回目まで映画『The Notebook（邦題：君によむ物語）』を視聴した。第2次世界大戦前～戦後のアメリカと現代を舞台にしたカップルの話で、若い登場人物の発音は比較的明瞭で、単語や文法も平易であり、会話のセンテンスは短めで、やや長めの単語であっても、集中していれば聞き取りやすいドラマである。2時間程度の長さだが、4回の授業に分割し、同じ場面を幾度か視聴させ解説し、単語や文法が比較的わかりやすく聞き取りやすい部分については、日本語字幕ではなく、英語字幕、あるいは、字幕を消し、音声に集中させた。その間、英検5級、準2級、3級のレベルチェックテスト（アンケート）を実施した（図1、図2、図3）。それぞれの平均点、最高点、最

低点をまとめると次のようになる（表2）。

準2級は、平均点37、最低点15、最高点70で、前年度の41、5、65と資格するとそれほど差はない。3級の今年度は、44、15、90で、前年度は、40、15、75で、バラつき方は相似していると言える。ただし、上位者のレベルは、今年度の方が若干高いことがうかがえる。5級については、今年度82、10、100に対し、前年度93、80、100で、非常に低いレベルの層が若干多くいることが伺える。正答率が低い場合には、真面目に取り組んでいないのではないかとということも疑われるが、当該学生の他の英語関係の授業のテストの点数などから、実力相応ではないかと考えられた。つまり、今年度は、前年度に比べ最低レベルが低く、最高レベルは高い。レベルの広がりにより大きくなっている。

第3回目の授業では、映画を視聴した上で授業中の解説を踏まえた理解度確認をした。授業に集中していれば映画の中での会話を使っている選択問題であり、概ね高い正答率が得られると考えることもできるが、必ずしもそうはならないという前年度の経験を踏まえ、「テスト」ではなく「集中力確認」という名称のアンケートとした（図4）。結果は平均点44、最低点30、最高点60となった。これは英検準2級のレベルチェックテストの37、15、70と比較すると、最高点はやや低く、最低点は高く、平均点もアップしている。設問としては、やや難解な出題はあったが、ある程度真面目に受講していれば、一定の得点が獲得できるような問題群であったと想定できる。全部で10問であったが、そのうち全員正解は1問で、全員不正解は2問となった。全員正解した設問を次に示す。

景品をもらったフィンとガールフレンド・サラとの会話です。( )に入る言葉を選んでください。

【恋人、を呼ぶ際に使う】

- Hi, Fin!
- Hi, ( ). Look, I won you a prize.
- Oh, Fin, thank you!
- Oww!
- Yeah.

選択肢

- pal
- friend
- honey ○
- yogurt

次の設問は、9名中5名が正解、4名が不正解である。

男性と一緒に観覧車に座るアリーにノアが話しかける場面です。( )に入る言葉を選んでください。

【やめて下さい、を丁寧に言った場合】

- So, it's really nice to meet you.
- Allie, who is this guy?
- I don't know, Noah Calhoun.
- I would really like to take you out.
- Friend! Do you ( )?
- You can't sit more than two people in a chair, Noah.
- Okay, Tommy,

選択肢

- gain
- gain
- mind 5名 ○ (正答率55%)
- stop 4名 ×

次の設問は全員不正解となった。

アリーが根負けして、デートの誘いを受ける場面です。( )に入る言葉を選んでください。【親切でOKはしないで、という意味】

- Okay, okay, fine, I'll go out with you.
- What?
- No, don't do me any ( ).
- No, no. I want to.
- You want to? You want to?
- Yes!
- Say it.
- I want to go out with you.
- Say it again.

- I want to go out with you.
- All right, all right we'll go out.

選択肢

- kinds 9名 ×
- ways
- favours ○ 正解
- lovers

恋人を Honey と呼んでいる場面の理解は容易であったが、やめてください、という日本語の意味に引きずられて、mind ではなく、stop を選んでしまっていると思われた。親切という日本語の意味から kinds を選択し、favours を選択できなかったのは、favor という名詞を知らなかったというだけでなく、形容詞としての kind には親切という意味があるが、形容詞には複数形の s はつかず、種類という意味の名詞として複数形の s がつくことがうまく整理されていないことが関係していると思われた。こうしたことを細かく解説していくと単語や文法の説明だけで際限なく時間を要することになり、また、学生の受容にとっても負担になると感じられた。そのため、解説は簡潔を心掛け、別の局面で同様の内容を繰り返して話すようにした。

10月26日には、集中力確認の第2回目のアンケートを実施した(図5)。こちらの平均点、最低点、最高点は、50、20、100(50点満点を100点に換算)である。1回目の集中力確認は44、30、60であり、これと比して、平均点、最低点共に向上し、最高点については大きく向上したと言える。この設問の中には、前回出題と同じものが2問含まれている。次のように新しい設問の回答率は低いが、前回出題分については向上している。

### 【新しい問題】

アリーとノアが湖ではしゃいでいる場面で、アリーは自分は「鳥」の“何か”であると言っていました。その“何か”に最も関係が深いと思われる花はどれでしょうか？ [実際の質問内容と表現は変更している]

選択肢 (数字は回答者数)  
ひまわり 5  
チューリップ 0  
カーネーション 4 ○ (正答率 36%)  
菊 2

### 【過去問題】

男性と一緒に観覧者に座るアリーにノアが話しかける場面です。( )に入る言葉を選んでください。【やめて下さい、を丁寧に言った場合】

選択肢  
gain 1  
pain 2  
mind 7 ○ (正答率 63%/ 前回は 55%)  
stop 1

### 【過去問題】

観覧車につかまるノアへの警告と、ノアがアリーを誘う場面です。( )に入る言葉を選んでください。【やめろ、という意味】

Get down, Noah, you're gonna kill yourself!  
Noah, ( ) it out.  
Now, will you go out with me?

選択肢  
put 1  
get 3  
take 2  
cut 5 ○ (正答率 45%/ 前回は 33%)

映画の中では、鳥の生まれ変わり、という文脈で reincarnation という単語が使用される。その解説として、re は「再」、in は「化」、carnation は「肉体」を意味し、花のカーネーションの色は肉片に似ているから、という説

(他の説もある) などを紹介していたが、印象に残る者にとっては定着するが、そうでない者も一定数存在することがわかった。mind を正解として選択させる設問では、前回は踏まえ着実に理解向上が進んだ者がいる。一方、内容をすっかり忘れてしまったらしく文脈も考慮せず、gain や pain を選択するものもいる。こうしたことから、基礎的な知識レベルのバラつきの広さのみならず、学習意欲や態度のバラつきも相当あるのではないかと想像された。

映画を全て視聴した後、テストとして感想を書かせたところ、次のようになった。(下線は筆者。筆者により文章は誤字脱字など一部訂正あり)

#### 映画に関する感想

- ・主人公や登場人物がはなしていることを和訳や意味を調べて見ることで、とても深いなと思いました。婚約者の人がとても心の良い人でノアとアリーが結ばれたこともびっくりしました。
- ・本当に好きな人と結婚できてよかったと思いました。比喩の表現が多く使われてて外国っぽいと感じました。
- ・普段外国の映画を見ることがほとんどないので字幕付きでも理解出来るか分かりませんでしたがとてもいいお話でした。最初の鳥だったり色々なところに伏線があったりして話が分かりやすかったです。
- ・初めてハリーポッターシリーズ以外の洋画を見て、外国の恋愛映画はこんな感じなんだと知ってとても感動したし、他の洋画も見てみたいと思った作品だった。

#### 英語に関する感想

- ・短い英語の文章でも一つ一つの単語を理解して会話をする重要さが分かった。また面白い単語や相手を尊重、小馬鹿にする単語なども聞き分ける事ができて映画全体がさらに面白味がわく内容だった。
- ・英語も聞き取りやすく何回もリピートしてる部分もあったのでそれも含め全体的にストーリー性もわかり面白かったです
- ・人によって呼び方を変えるところや、名前ではない呼び方もあるんだと新しく学びました。
- ・あまり海外の映画は見ないので見るようにして、

たくさん英単語を学びたいと思いました。

- ・友達とか親しい間柄での会話が多かったからその分口語的？日常で使えるような砕けた言い方を学ぶことが出来て良かった。ちょっとしたジョークなどの遊び要素が入った英語も面白いなと感じた。
- ・普段英語の授業で習わなかったような、砕けた表現も学べてすごく勉強になりました。特に、friend、duke など相手のことを言い換えて表現する点が残りました。
- ・人の名前は敬う人と友達とで呼び方が異なるんだなと思いました。英語は苦手なので自分なりに単語を勉強して習得していけたらいいなと思います。
- ・主人公の名前の呼び方でノアの呼び方が、ノアだけでなく様々な敬う言い方だったり出てきたので、他にどんな人の呼び方があるのか気になりました。
- ・映画に出てくる英語を理解するのは難しい事だと感じていたが、日本語字幕で理解をして英語字幕で見るとあまり難しいことでは無いと感じた。場面によって言い方が変わったり面白い表現がいっぱいあったので勉強になった。
- ・英単語は書けないが「迷信的\*なものを信じる」という英語が特に印象に残った。映画の最初と最後に登場したので、この作品にとって一番重要な言葉じゃないかと思った。（\*superstitiousのこと）
- ・日本で聞き慣れている英語と外国の方が話している英語は聞いてて全然違うし、より難易度もあがると感じます。gain と get は文字で見れば違いが分かりますが、聞くだけではまだ私には難しいと感じました。
- ・ハニーはともかく、ダーリンも女性相手に使えることは初めて知りました。
- ・リインカーネーションの意味と、カーネーションの花の由来に関係があることがおもしろいと思いました。

映画に関する感想には、英語文化に対する関心を示した表明がうかがえる。また、英語に関する感想には、字幕による映画視聴への順化や、場面によって異なる表現への気づき、会話者たちの関係によって呼び方が異なること、少しずつではあるが英語の理解のハードルが下がっていきそうだという学生の思いも感じられる。

## V. 授業の詳細② [6回目～10回目、主にイギリス英語]

第6回目からは映画『My Fair Lady』を3回に渡り視聴した。ジョージ・バーナード・ショーの小説『ピグマリオン』(1913)を原作としたオードリー・ヘップバーン主演の1964年のアメリカ映画である。20世紀初頭のイギリスで花売りをしているイライザは下町訛りが強く粗野である。彼女の英語や態度をレディにしてみせると言語学者のヒギンズはピカリング大佐と賭ける。ヒギンズのイギリス英語は、やや大袈裟といえるほど特徴的であり気取った感じがある。一方、イライザのしゃべり方も態度と相まって、英語そのものが理解できなくても、下品な感じが伝わってくる。学生は、これまで視聴していた『きみに読む物語』の英語とはかなり異なった印象を受けるであろうと想定された。そのため、視聴の第1回目の授業では、いくつかの代表的な場面について、解説を行ったうえで、日本語も英語も字幕なしで、リスニングに集中させてみた。コックニーと呼ばれる訛りでは「エイ」が「アイ」となる。矯正練習でイライザは、The rain in Spain stays mainly in the plain. (スペインでは雨は主に平地に降る)を、ザ レイン イン スペイン ステイズ メインリイ イン ザ プレイン、ではなく、ザ ライン イン スパイン スタイズ マインリイ イン ザ プラインと発音し続ける。こうした発音の特徴について解説する以前に、このセンテンスを構成する単語や文法については、学生が既に理解しているとするか、そうではないかを判断するために、事前にアンケート(6)を行った。平均点、最低点、最高点はそれぞれ、43、0、80であり50以下が半数以上となった(図6)。最も易しいと思われた設問は以下である。

雨を意味する英単語は？

rain 13 ○

snow

storm 1

wind

期待された正答はrainである。stormは強い雨という意味で、選択として完全に間違っているとはいえない、という趣旨の解説を行ったが、全体的な回答状況からは、比較的基礎的な単語の意味について非常にあやふやな把握をしている者の存在があらためて浮かびあがった。こうしたレベルから100%理解していくことを学生全員に要求することは困難であると思われたため、わかっていない者がいることは念頭に置きつつ、簡潔に平易に解説を行った。

2回目の小テストとして、感想を書かせたところ、次のようなものがあった。

- ・ 普段洋画は字幕ありで見ますがこの授業では日本語が出ないので、ヒアリングの良いトレーニングになっていると思います。海外に行った人は普段英語を聞いていると話せるようになるらしいのでしっかり映画を見て英語を学びたいと思います。
- ・ イライザの口が悪すぎてびっくりしました、これからどう変わっていくか楽しみです。

こうしたコメントから、英語そのものの意味が完全にわかっていなくても、聞くということをして学生が肯定的に受け止めていると思われる。イライザの英語を聞きそれが「口が悪すぎて」と直観する感性を持つ学生がいることも、教授者としてはやや意外であり啓発された。

その次の授業では、事前のアンケート(6)を踏まえ、事後のアンケート(7)を行った。映画の中のハイライトとも言える場面で、深夜に及ぶ練習の末、ついに ザ レイン イ

ン スペイン ステイズ メインリイ インザ ブレインと発音するようになったイライザは、ヒギンズやピカリングと共に、大はしゃぎで歌い踊る。その後、寝床についてのイライザは眠ることができず、I could have danced all night. と歌いだす。しかし、そのまま一晩中踊り続けることはなく、メイドにも促され、眠りにつく。これに関連する設問群の平均点、最低点、最高点は、51、20、70となった(図7)。いくつかの設問は、事前と事後は同一であったが、次のようになった。

I could have danced all night. この文章は、文法的説明だと、次のうちどれに当たるか？

正解 9 (n=16)

過去完了 2

仮定法現在 1

仮定法過去 4

仮定法過去完了 9 (正答率56%/前回は36%)

I could have danced all night. の意味は？

正解 11 (n=16)

一晩中踊っていた。 2

一晩中踊り続けていた。 1

一晩中踊ろうと頑張り、踊り続けていた。 2

一晩中踊ろうと思えば、踊ることができていた。

11 (正答率68%/前回は14%)

印象的な場面だったためか、正答率の増加は顕著となった。テスト3として感想を書かせた。

映画についての感想(抜粋)

- ・ あまり英語のなまり方について分からなくてほぼ一緒だろうと思ってましたが、fatherの語尾が下がっていてなまりをハッキリ捉えることができた。

英語についての感想(一部割愛)

- ・ レインなんかインザブレイン、聞いてて心地よい。でも発音するときは「エイ」じゃなくて「アイ」のほうが言いやすい。
- ・ 短い文章で、簡単な発音がいくつか出てきたし同じ発音を繰り返す英文があったが覚えればいくらでもどんな時でも使えそうだと分かった。
- ・ 文法とか発音だけではなく、イントネーションも重要だと感じた。

- ・ ゆっくりとした発音ならわかったりする。とても難しいなと最初は思ったんですがちゃんと聞けて少し理解もできるようになったのでとてもよかったです。
- ・ 訛った英語のイントネーションと普通の英語のイントネーションが結構違っているのが見てて分かりました。
- ・ 英語の短い文章が何度も映画内ででてきて、聞き取りやすかったです。でも発音がやはり違うので意識して聞かないと分かりませんでした。
- ・ 「インフルエンザ」が英語でも使われていることに驚きました。また、これまでの学生生活では丁寧な英語しか学んでこなかったのですが、英語にも汚い言葉というものがあることは初めて知り、興味を持ちました。
- ・ 英語はとても嫌いだ、映画などを通して学ぶとわかりやすいものもあつたり面白いものもあつて、自分は英語単体が嫌いでもないということがわかった
- ・ 文は同じでもイントネーションによって意味が変わることもあるのが驚きました。
- ・ How do you do? という意味は「どうするの?」という意味だと思っていたが、マイ・フェア・レディでは挨拶としてお互い How do you do? と言っていたので面白いと思った。
- ・ 字幕があればどんな単語を言っているかわかるけど、なしたと本当に何言ってるか分かんないなと思いました。
- ・ スペインの雨は～の文で、地域で発音のしかたに違いがあることと、in と on の使いわけを知りました。

イライザが生まれた町に戻り父親を“father”と呼ぶ場面では、イントネーションが変わっていたのだが、その点については特に授業では指摘していない。しかし、学生は違いをはっきりとわかっていたようである。「エイ」よりも「アイ」の方が言いやすいというコメントも興味深い。アメリカ英語よりもイギリス英語の方が日本人にとって話しやすい(註2)という考え方もあり、学生がこれからしゃべろうとする英語のモデルの参考になるのでないかと考えられた。これらのコメントから、授業における解説がそれほどなされていない領域においても個々人での英語に対する関心が深まっていっていると推測される。

9回目からは、シェイクスピアの原作を基にした映画『Romeo and Juliet』(1968)の視聴を始めた。登場人物はイギリス英語を話す舞台はヴェローナというイタリアの都市であり、イギリス・イタリアの合作となっている。科目名は『現代英語』ではあるが、現代英語と比較した相対的理解や、現代英語にも活用されている韻についても学ぶ機会とした。シェイクスピアという人物の時代や代表的作品などについての常識的な知識や理解も視野に事前のアンケート(8)をしたところ、平均点、最低点、最高点は、52、20、100となった(図8)。挿入歌に使われている単語の修得状況を確認するため、以下のような比較的易しい問題も含めた。

バラを表す英語として適切なものはどれか？
正解 8 (n=10)
rose 8 ○ (正答率80%)
cherry
sunflower 2 ×
chrysanthemum

これまでのテスト(アンケート)の状況から、義務教育、高校での学習を踏まえて一定のレベルの範囲については全員が100%理解・修得しているという前提で授業を構成していくことは難しいことが改めて判明した。その一方、すべての領域に渡ってゼロパーセントというわけではなく、まだらのように理解領域が点在しており、全体像はつかめず、一律の説明が難しいことが伺える。

## Ⅵ. 授業の詳細③ [11回目～15回目、イギリス英語、アメリカ英語]

10回目の前半で『Romeo and Juliet』の視聴を途中で一旦終了し、10回目の後半から11回目にかけて、映画『Romeo + Juliet』(1996)を視聴した。アメリカ映画で、現代のメキシコと想定される架空の地域、ヴェローナ・ビー



チを舞台としている。プロローグをテレビキャスターがアメリカ英語的に読み、アメリカの俳優であるレオナルド・ディカプリオやクレア・デーンズなどがイギリス風に、かつ、古語で会話する。一方、マキューシオ役のハロルド・ペリノーは、いわゆる黒人英語の発音で話すなど、混沌とした言語的世界が展開される。12回目で、『Romeo and Juliet』の後半と、各映画に使用されていた挿入歌の解説などを行い、授業内容の確認としての小テスト(4)を行った。結果が評価にダイレクトに関係する選択式とした(図9)。平均点、最低点、最高点は、55、19、100で、元々の学習レベルが高く集中して取り組んでいた者は満点であった。平均点は60程度と予想していたが、やや低めの点数の層が若干多く、想定を下回った。一方、半数以上が50点以上となり、順調に受容している層が明確にあるように伺えた。以下、設問の一部を抜粋した。

beautiful、attractive、などに似た意味を持つ英単語はどれか？

正解 11 (n=18)  
 fool 1  
 fail 3  
 fair 11 (正答率 61%)  
 Foul 3

mission、duty、などに似た意味を持つ英単語はどれか？

正解 13 (n=18)  
 ask 1  
 desk 1  
 task 13 (正答率 72%)  
 mask 3

概ね順当な結果であったと思われる。正答率100%を期待していた設問もあったものの実現は難しく、こうしたレベルを教授側が受容し、授業や評価体制を構築する必要性が改めて感じられた。

アンケートとして感想を書かせたところ、次のような回答があった。

こんなに素晴らしい作品を英語で学べた事は一石二鳥で、結果良かったとも感じている。

全般的に好意的に受容している様子が伺えたが、特に学びを感じ取っている学生が存在していることは、教授者として嬉しく感じられた。

13回目、14回目は、1999年のアカデミー賞を受賞したアメリカ映画『Shakespeare in Love (邦題：恋に落ちたシェイクスピア)』を視聴した。架空のドラマで、創作に行き詰まっていたシェイクスピアが身分の違う女性と恋に陥り、平行して戯曲『ロミオとジュリエット』を書きあげながら、自らも舞台に立つという劇中劇である。イギリスの俳優がイギリス英語で、アメリカの俳優がイギリス英

ロミオとジュリエットが属する一族の名前の組み合わせのうち、正しいのはどれか？

正解 16 (n=18)  
 「マヨネーズ家」と「キューピー家」 0  
 「キューカンバー家」と「ヨネザワギュー家」 1  
 「モンタギュー家」と「キャブレット家」 16 (正答率 88%)  
 「モレスカ家」と「ソネット家」 1

tease、の意味は？

正解 8 (n=18)  
 ながる 4  
 じらす 8 (正答率 44%)  
 たたえる 6  
 よろこぶ 0

結婚する、の意味をもつ英単語は？

正解 16 (n=18)  
 tarry 0  
 parry 2  
 marry 16 (正答率 88%)  
 very 0

語やアメリカ英語で、舞台上の言語は古語で、それ以外は現代的な英語で、と、この作品も言語的には混沌としている。後半部分のハイライトとして吃音の役者が、プロローグを上手く言えるかどうかという場面がある。そこで文脈の理解がスムーズになされるよう、授業の最初にプロローグを英語で繰り返し発音させ、シェイクスピアの詩の特徴であるソネットの韻を意識させた。

15回目はアメリカのテレビドラマ『Chicago MED』ファースト・シーズン第1話(2015)を視聴した。内容理解には、アメリカのアフガニスタン戦争の帰還兵について知る必要がある。そのため、関連する報道と、帰還兵をモチーフとしたSkylar Greyの『Coming Home-Part II』や、ラップによるDiddy-Dirty Moneyの『Coming Home ft. Skylar Grey』を事前に聞かせて解説した。2年次学生のための最後の授業であることを考慮し、アメリカの俳優ロバート・デ・ニーロがニューヨーク大学の卒業生のために行ったスピーチを聞かせ、全15回の授業は完了した。最後の感想・アンケート(12)からのコメントは次のようなものであった。(一部修正)

#### 英語の歌を聴いて

- ・最初に日本語を見ていたのでどんな歌なのかわかりやすかったです。英語のラップ調を聴いて韻を踏んでいるのがちゃんとわかりました。
- ・発音だったり語尾だったり日本人と比べてやっぱり本場はすごく綺麗だなと思いました。自分も綺麗な発音になりたいです。
- ・I'm coming homeの流れを何度も聞いたので同じところは何て歌っているか少しずつわかりました。

#### Chicago Medを視聴して

- ・普段医療系の映画を見たりしないが、受け答えが素早かった。日本語字幕がないと英語を理解することができないが、英語はメリハリがありどんな状況なのかわかりやすかった気がした。
- ・人と人とのコミュニケーションの取り方がアメリ

カならではの、クスッと笑えるところがあればシリアスな場面もあって、感情の起伏が激しく揺さぶられた。

- ・医者の名前を呼ぶときの、ドクター〇〇という形は漫画などでよく見ることもありましたが、本当に言うのだなと思いました。

#### ロバート・デ・ニーロのスピーチについて

- ・この世の中には芸術が必要だけれど、芸術で生きていける人って少なく、悩んで迷う人もたくさんいると思います。だからこそあの人のスピーチでまた前を向けた人はたくさんいると思う。とても勇気もらえるスピーチでした。
- ・スピーチを聞いてこの卒業生だけでなく色々な人に刺さる言葉だなと感じました。卒業してから困難なことや苦勞することがあっても頑張りたいと思いました。
- ・あまり日本では卒業生のスピーチで笑いを取るということは無いイメージだが、このスピーチでは英語特有の冗談を入れつつ激励の言葉を生徒に伝えていてとてもいいなと思った。

#### 全般的な感想

- ・結局ずっと英語が分からないままでしたが、イギリス英語のほうが肉肉たっぷりという感じがして好きです。京都の人みたいです。アメリカ英語はほんと映画!という感じがしてオシャレでした。倒置法、使ってみたいです。
- ・同じ英語であってもイギリス英語の発音とアメリカ英語の発音ではイントネーションが違うところが印象的でした。
- ・発音だったりアクションだったり国が異なるだけでこうも違うのかということが分かりとても面白かったです。時代によって着る服装だったり建物の設計や見た目が全く違うのでそこに触れられてとても見ていて楽しかったです。
- ・ロミオとジュリエットにでてくる「どうしてあなたはロミオなの?という部分の英語が「Why are you Romeo?」ではなく「Wherefore art thou Romeo?」だったのが昔の古い英語なんだと面白く感じた。
- ・ドラマや映画以外でも目にしたが、「幸運を祈る」という言葉では「足を折る」という英語になるなど、とても印象に残っている。
- ・一見長くて難しそうなセリフでも、分解してみたら短い単語だらけで意外とわかりそうだなと思いました。

シェイクスピアの詩の中で、英語の韻につ

いて説明したが、ラップにおける韻については一切説明はしていなかったが、それが言葉のリズムを作っていることに気が付いた学生がいた。医者やドクター〇〇と呼ぶことについても説明はしていないが、学生の方で気付いたようであった。英語ならではのメリハリや、イギリス英語を「京都の人」と解釈するなど、オーラル英語の持つ語感を、若い学生ならではの感受性で受け止めているように思われた。

本授業の対象は2年次学生であるため、卒業に向けての激励の言葉も伝えたいと筆者は考えていた。ロバート・デ・ニーロのスピーチはユーモアに富んでいると同時に、日本語によるスピーチにはない温もりがある。それはアメリカという多様性に満ちた異文化社会と、英語という言語の特徴によって生み出されていると筆者には感じられる。そうしたことを説明によるのではなく、実際に見聞きすることで英語とその周辺文化の両方を学ぶ機会となったのではないだろうか。

#### IV. 考察とこれからの課題

毎回の授業参加者は15名程度であり、筆者は概ね学生ひとり一人のレベルやコメントを把握していた。英語力、理解力、基礎知識など幅が広い学生群から得られるGoogleフォームを活用したデータを通じて、英語への興味を喚起することができたのではないかと考える。前年度同様、言語としての英語については、リズムを意識すると発音がしやすかったり、一見難しくて敬遠しがちな長めの英単語の方が聞き取りやすかったり、簡単と思える動詞や名詞の有用な使い方など、単なる暗記ではない学習を行った。英語を通じた文化としては、詩の重要性であったり、人種や階級問題があったり、ダイバーシティとインクルージョンに関する感想を記述するも

のもあり、言語のみならず文化的理解を深めていったと考えられる。

筆者が前年度から試行している文部科学省が提起した「外国語で他者とコミュニケーションを行うには、社会や世界との関わりの中で事象を捉えたり、外国語やその背景にある文化を理解するなどして相手に十分配慮したりすることが重要である」[文部科学省2018:12]を踏まえた授業運営が、幾分なりとも実現しているのではないかと考える。これは、学習者中心の授業を心掛け、学生たちのレベルについても、学生と共有しながら進めたことも一因と考える。また、前年度の英語授業の記録は、多少なりとも羅針盤して参考になっている。

『現代英語』が含む文化的理解の比重を強め、この科目は次年度からは『ドラマで学ぶ英語の世界』にリニューアルされて開講となる。シェイクスピアから鬼滅の刃まで、英語圏の英語だけではなく、日本語がどのように英語になっているのか、異文化理解を一步進めていくための取り組みの一環である。文化理解が、英語への興味を喚起し、コミュニケーションとしての英語力を向上させていく一助となるよう計画している。

表1. 15回分の授業内容 ア(1)はアンケート1回目、テ(1)はテスト1回目、結果(A.L.H)は、平均点、最低点、最高点、/は満点での点数

回	実施日	種類	内容	人数	結果(A.L.H) / 満点
1	9.14	授業	授業のゴールと視聴予定動画の紹介		
2	9.28	授業	映画 THE NOTEBOOK (きみに読む物語) 1/4 視聴		
		ア(1)	英検準5級レベル (選択問題)	10	図1 (82, 10, 100) /100
		ア(2)	英検準2級レベル (選択問題)	14	図2 (37, 15, 70) /100
3	10.5	授業	映画 THE NOTEBOOK (きみに読む物語) 2/4 視聴		
		ア(3)	集中心確認	9	図4 (44, 30, 60) /100
4	10.12	授業	映画 THE NOTEBOOK (きみに読む物語) 3/4 視聴		
		ア(4)	英検3級レベル (選択問題)	15	図3 (44, 15, 90) /100
5	10.26	授業	映画 THE NOTEBOOK (きみに読む物語) 4/4 視聴		
		ア(5)	集中心確認	11	図5 (25, 10, 50) /50
		テ(1)	映画の感想 (日本語) 【自由記述①】	12	
6	11.2	授業	映画 MY FAIR LADY 1/3 視聴 (部分的に日本語字幕なしで視聴)		
		ア(6)	授業構成のための事前アンケート	14	図6 (43, 0, 80) /100
		テ(2)	映画の感想 (日本語) 【自由記述②】	14	
7	11.9	授業	映画 MY FAIR LADY 2/3 視聴 (発音レッスン～仮定法過去完了)		
		ア(7)	授業内容の確認	16	図7. (51, 20, 70) /100
8	11.16	授業	映画 MY FAIR LADY		
		テ(3)	映画の感想、および英語で学べた点 【自由記述③】		
9	11.30	授業	映画 ROMEO AND JULIET (1968) 前半視聴		
		ア(8)	シェイクスピアクイズ	10	図8. (52, 20, 100) /100
10	12.2	授業	映画 ROMEO AND JULIET (1968) 後半視聴 映画 ROMEO + JULIET (1996) 1, 前半視聴		
11	12.2	授業	映画 ROMEO + JULIET (1996) 1, 後半視聴		
12	12.7	授業	映画と挿入歌の解説		
		テ(4)	授業内容の確認	18	図9. (55, 19, 100) /100
		ア(9)	1968と1996を比較した感想 (英語又は日本語) と好み 【自由記述④】	16	4名英語で回答
13	12.14	授業	映画 Twelfth Night (十二夜) 序盤のみ視聴 映画 Shakespeare in Love (恋におちたシェイクスピア) 前半視聴		
		ア(10)	映画の感想 (英語又は日本語) 【自由記述⑤】	15	2名英語で回答
14	12.21	授業	ロミオとジュリエット プロローグの音読 映画 Shakespeare in Love (恋におちたシェイクスピア) 後半視聴		
		ア(11)	映画の感想 (英語又は日本語) 【自由記述⑥】	15	2名英語で回答
15	1.4	授業	アメリカのアフガニスタン戦争からの撤退のニュース アフガニスタンからの帰還兵がモチーフとなった英語の歌 Skylar Grey, Coming Home - Part II Diddy - Dirty Money, Coming Home ft. Skylar Grey 英語ドラマ CHICAGO MED 視聴, CDS サイト確認 ロバート・デ・ニーロ、ニューヨーク大学 卒業式 2015		
		ア(12)	授業全体を通じての感想 【自由記述⑦】	11	

表2. 英語検定に準じたテストの点数 ( ) は前年度

	平均	最低	最高
5級	82 (93)	10 (80)	100 (100)
準2級	37 (41)	15 (5)	70 (65)
3級	44 (40)	15 (15)	90 (75)

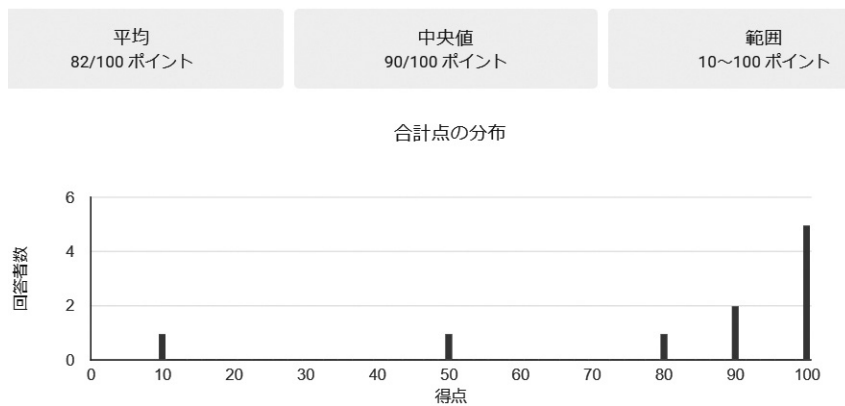


図1. アンケート (1) 英検5級レベルテスト

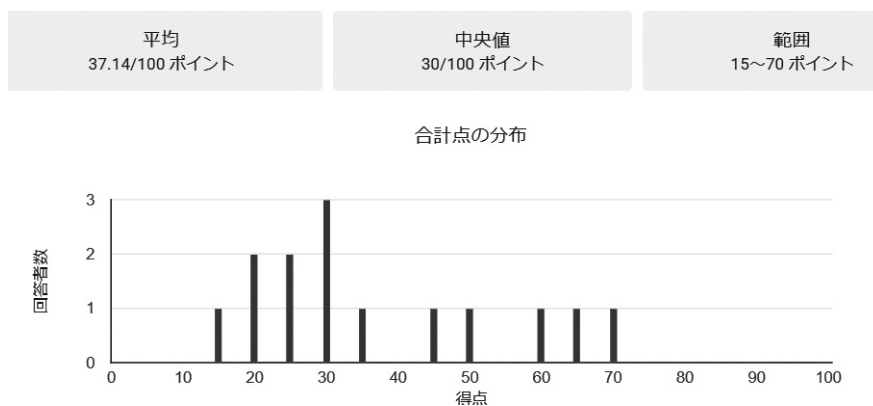


図2. アンケート (2) 英検準2級レベルテスト



合計点の分布

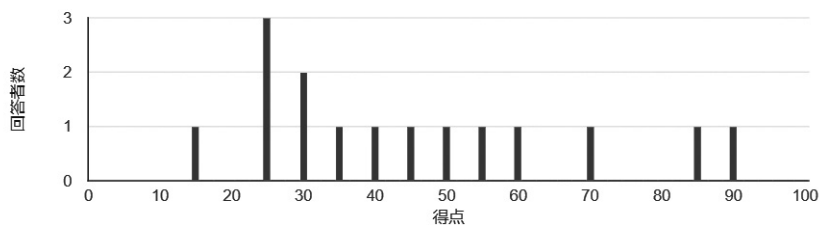


図3. アンケート (4) 英検3級レベルテスト



合計点の分布

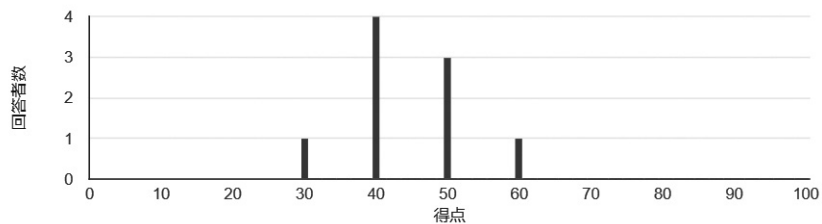


図4. アンケート (3) 集中力確認テスト



合計点の分布

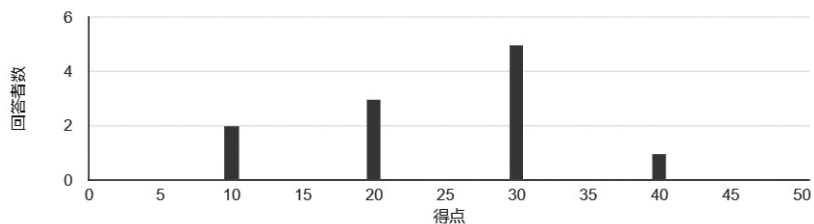


図5. アンケート (5) 集中力確認テスト

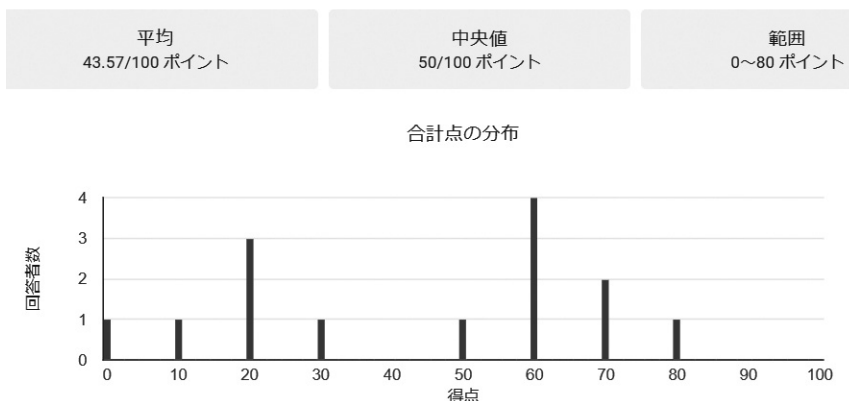


図6. アンケート (6) 授業を構成するための事前アンケート

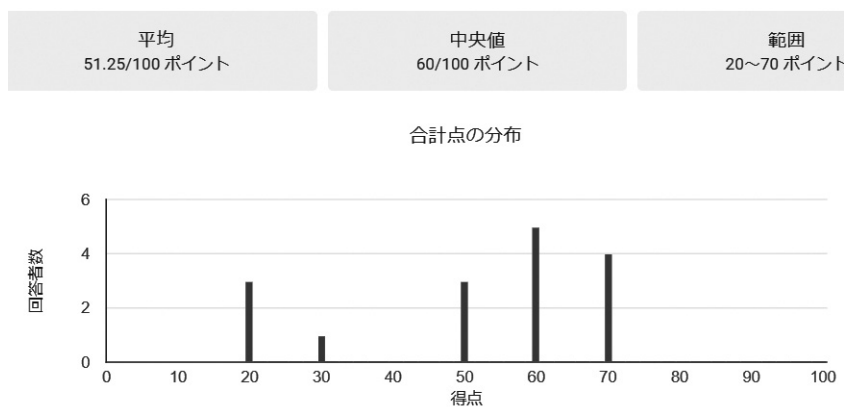


図7. アンケート (7) 授業内容の確認

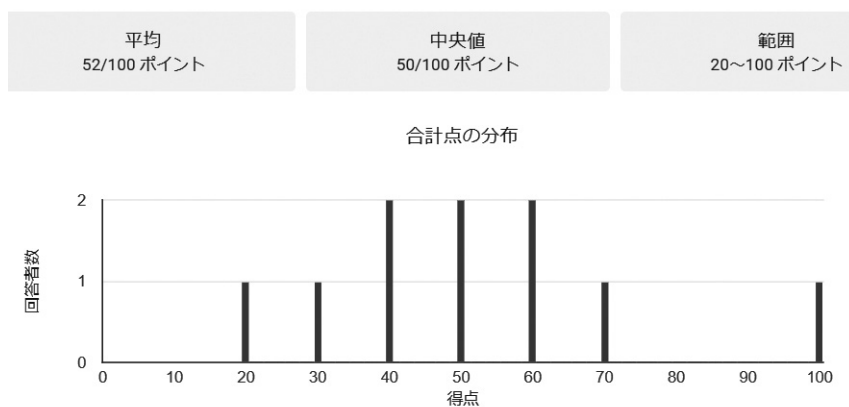


図8. アンケート (8) シェイクスピアに関するクイズ

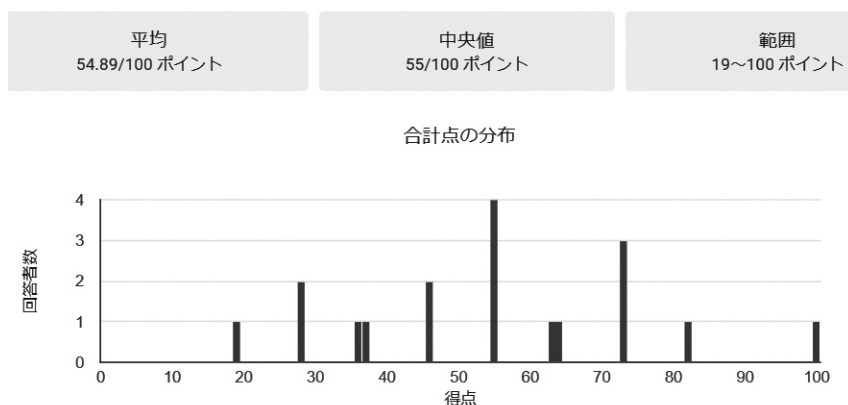


図9. テスト (4) 授業内容の確認

## 註

1. 学習者を中心にすることは、安心して生徒がかかわることのできる学習環境の一環である。こうしたことを実現していくためには、1時間の授業の展開から、ある教科のカリキュラム、更には、学校全体の風土賞罰を対象とする視野が求められる [秋田2008:130]。本研究はそうした試みの一つである。
2. 日本の英語教育ではRを巻き舌で発音する「rhotic (R発音)」のアメリカ英語がベースであり、多くの人が苦手意識を持つ。しかし、オーストラリア英語はイギリス英語と同様にRの発音が消える「non-rhotic (非R発音)」であり、日本人には発音しやすいという利点がある、という指摘がある [English Hub]。自分が話しやすい英語のモデルを見つけていくという観点からも学生にとっては有益であったかもしれない。

## 関連資料

### English Hub

「2018.11.20 オーストラリア英語を攻略！覚えておくべき独特な発音&単語とは？」

参考サイト

English Hub: <https://englishhub.jp/news/australia-pronunciation.html> (最終アクセス 2023.1.4)

### 秋田喜代子

2008『改定案 授業研究と談話分析』放送大学教材

### 飯塚直子

2021「第8章 教室で再現するフィールド」『人類学者たちのフィールド教育 自己変容に向けた学びのデザイン』箕曲在弘, 二文字屋脩, 小西公大 編, ナカニシヤ出版

### 永野篤

2022「英語学習における個別レベル対応の実現ーリアルタイム・インタラクティブ・コミュニケーションを通じてー」『聖和学園短期大学紀要 第59号』

### 箕曲在弘

2021「第3章 反-反設計主義のフィールド教育」『人類学者たちのフィールド教育 自己変容に向けた学びのデザイン』

### 文部科学省

2018「高等学校学習指導要領 (平成30年告示) 解説 外国語編 英語篇」